



小・中・義務教育学校のすべての教員に向け、
複式教育通信「WakaFuku」を発行します！

#複式学級の強み #形成的評価
#学習評価 #こどもの学びの姿の見取り

学習評価を充実させ、よりよい授業づくりにつなげましょう！



「WakaFuku」第1号で、複式学級の「強み」の一つに「少人数で一人一人を見取りやすく、個に応じた指導を実現しやすい」ことを挙げました。第3号では、「**学習評価**」・「**こどもの姿の見取り**」を中心にお伝えします。もちろん、単式学級で授業をされている先生方にも参考にしていただけます。

このような質問をされたら どのように応えますか

- 「この単元(題材)を通して育成したい資質・能力は？／この単元(題材)の目標は？」
- 「単元(題材)の目標とその設定の理由は？」
- 「本時の授業の目標とその設定の理由は？」
- 「単元(本時)の目標はどの程度実現できましたか？その根拠は？」
- 「どのような方法でこどもの姿を見取りますか？／評価方法は？」
- 「本時の授業で、手立てが必要なこどもはいましたか？」

単元(題材)・授業をデザインする際に、意識しておきたいですね。



学習評価の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。

- 「児童生徒にこういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
- 児童生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

指導と評価の一体化を図るために

- 児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視する。
- それによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切である。

※国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」を基に作成

学習評価で大切にしたいこと

様々な教育方法・指導方法を効果的なものとしていくためには、先生による丁寧なこどもの学びの姿の見取り、単元(題材)を見通した学習過程と学習環境のデザインが欠かせません。以下のポイントを参考に、ご自身の指導を振り返り、複式学級、単式学級での学びを充実させていきましょう！

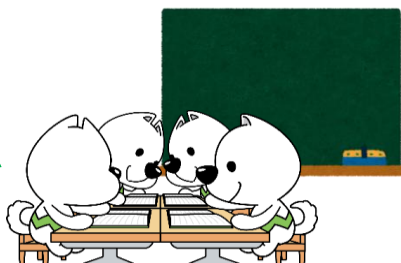
【計画】

- 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通す。
- こどもの具体的な姿を想定しておく。
- こどものつまずきを可能な限り想定し、それぞれに対する手立てを考えておく。
- ペーパーテストだけでなく、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な評価方法を取り入れる。

形成的評価^(※)を充実させる。

※形成的評価

学習過程の途中で、児童生徒一人一人のつまずきや伸びを把握し、評価するもので、その後の児童生徒の学習の改善や教師による指導の改善に生かす目的で行う。



【授業中】

- 学習の過程や成果を評価する。
- ノートの記述など、こどもの事実で評価する。
- 「**努力を要する状況(C)**」と評価することも見だし、指導や支援により「**おおむね満足する状況(B)**」へと導く。
- 指導等により改善していく。
(「書いて終わり」、
「発表して終わり」にしない。)



複式授業でのこどもの学びの姿の見取り

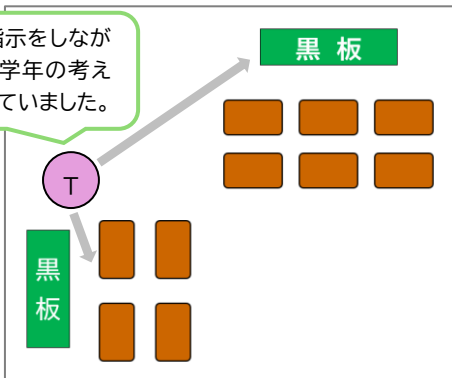
こどもの学習状況を適切に評価するためにも、授業中にこどもの学びの姿を見取ることが大切です。複式学級では、2学年を同時に指導しますが、どのようにこどもの学びの姿を見取るとよいのでしょうか。

「WakaFuku」第2号で、「学習環境を整えることで先生が常にこどもの学びの姿を把握しやすくなることにつながる」という内容をお伝えしました。複式授業でのこどもの見取りについて、高知県にある小学校の事例をご紹介します。

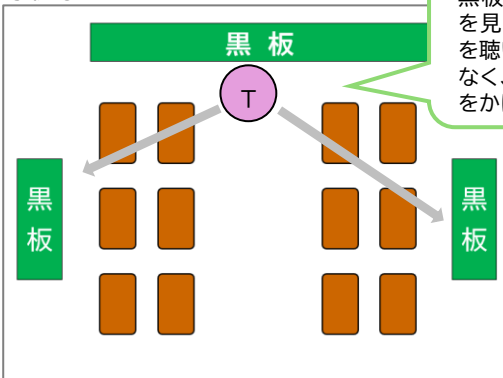
Point

一方の学年に指示をしながら、もう一方の学年の考えた内容を見取っていました。

事例①



事例②



Point

黒板に書かれた内容を見たり、こどもの話を聴いたりするだけでなく、必要に応じて声をかけていました。

- 両学年の学習状況を見取る。(間接指導時のこどもが黒板に書いている様子や記録を見取る。)
- 黒板を使って、こどもが記録しながら話し合いをしている。
→黒板等で「見える化」されていたので見取ることができる。

コラム「7月27日(月)開催『複式教育の充実に係る研修会』から」

研修会の事後アンケート等より

- ・複式授業について多くのこと、知りたかったことを学ぶことができた。
- ・自分の授業実践の方向性に自信をもつこともできた。
- ・模擬授業も参考になった。同時に両学年のこどもを見取ることの大切さを知ることができた。
- ・複式であることを「弱み」に感じていたが、今回の研修で、複式である「強み」を生かした授業作りができることを学び、複式授業への印象が変わった。
- ・こども一人一人に「役割」をもたせ、こども自身が考えながら課題解決に取り組めるような学習課題の設定や授業構成を工夫していきたい。また、こどもたちが単に授業に「参加」するだけでなく、一人一人が学びの場で「活躍」できる授業を目指して授業改善を進めていきたい。
- ・本研修で学んだ「児童の活動から目を離さない」「任せられるかを判断してあえて離れる」といった関わり方は、複式・単式に限らず主体性を育むために不可欠であると思う。

県教育委員会としても、本研修会を通して得た学びが、明日からの授業への意欲や情熱につながったことを感じることができ、「研修会をしてよかった！」と思いました。

研究会等の情報

(注)②の申込は終了しています。

③については引き続き申込を受け付けています。申込方法は、二次案内をご覧ください。

①日程は調整中
「複式授業セミナー」

※今年度の会場は、紀北地方です。詳細が決まり次第、お知らせします。

②令和8年10月29日(木)
教育センター学びの丘

専門性の向上を目指す研修〈選択研修〉
「複式学級の授業づくり」
～こどもの主体的な学びの充実に向けて～

③令和8年10月30日(金)
「第76回和歌山県へき地複式教育研究大会 田辺・西牟婁地方大会」

編集後記

「WakaFuku」第3号では、「学習評価」や「こどもの姿の見取り」を取り上げました。これらのことは、キャリア段階に関わらず、すべての先生方の授業改善・授業づくりにとって大切なことであると考えています。「WakaFuku」が少しでも先生方の参考になれば幸いです。



本通信のデータ
閲覧はこちらから